うたごえは平和の力
許すな核戦争！
日本を平和のとりでに！

うたごえ新聞

編集　日本のうたごえ実行委員会
発行　うたごえ新聞社
東京都新宿区西大久保3の67
電話（361）5220～1
1カ月　30円（〒共）
3カ月　90円、6カ月　180円、1年350円

うた新三回刊　必ずやりぬこう！

初の分局担当者会議　意欲的な成果

〝一千万人のうたごえ運動の達成をはやめよう〟という六四年日本のうたごえ総会の決議を実行しうつすため、うたごえ新聞社では全国の分局に現勢調査をお願いしましたが、特に関西、東海、東北へは編集部から出かけて地方分局会議を開くなど、直接調査を行いました。その結果、うたごえ新聞の拡大、活用、通信、配布、回収にわたる取りくみを、一千万達成のため最も重要な「運動」の一つとしてうけとめ、全国あげて積極的に取りくむ方針が立てられました。また、関西、東海では、3・1ビキニ被災記念うたごえ祭典（二月二十八日・焼津市、五〇〇名目標）の成功へとりくむ中で、うたごえ新聞を拡大し、三月を目途に一万部発行をかちとり、どんなことをしてでも月三回刊をやりぬこう、そのための配布、回収の体制を必ずつくる、と全分局で一致した意欲が示されました。以下、その調査報告です。（東北および関東・東京については次号）

関西　一千万達成の保障

東北六県のうたごえ新聞の現勢調査と並行して、新聞発行以来初めての分局担当者会議が一月二十四日大阪市内・解放会館で行われた。大阪からは関西、東大阪、南大阪の各合唱団、大阪交通局、堂島エコー、グリーンコーラス（市職）の六分局、滋賀県から中心合唱団として発足したばかりの息吹合唱団、八日市あらくさ合唱団の二分局、神戸から神戸市役所センター合唱団分局、計九分局、十二名の担当者が集りはじめての交流を成功させた。

まず、第一の議題である、紙代滞納額の回収については、現在全国の滞納金総額の40%をもっている全関西の状況が明らかにされ、

紙代の滞納は思想問題だ

「これはたこが自分の足を食べると同じように日本のうたごえ運動の財産をくいつぶしていることだ！」（関西合、宝木さん）と、金の問題としてとらえるのでなく、読者の一人一人が二千万の担い手になるための思想問題として受けとめられ、（東大阪センター中川さん発言）拡大、配布、運用についてまでも点検する中でうた新中心の活動にしていくことが一千万達成を早める保障であるとして86%の紙代回収をかちとった。

配布については、どの分局も担当者がレッスンの中で渡すだけに終わっていて、点検するところがなく、他の活動等で忙しくなると新聞が配られなくなっていた（三月から九月まで殆んどくばられていなかった京都ひまわり）

創意を生かして滞納を一掃

回収については、殆んどの分局が団費と一緒に当月毎に集める方法をとっていて、前納制が確立していないし、団の指導部自身がどうしてこんなに紙代が滞ったのか分らないし、こんなに多額にある事も知らなかった（関西合）などうた新財政の確立の意義については殆んど指導もされず、読者個人個人にまかせられている。

この中で和歌山ミール分局が一年分に近い紙代を滞納していてうた新社から発送中止を云い渡され、廃品あつめ、事業活動、原水禁大会参加のカンパ活動、個人の自主カンパ等読者の創意ある活動をひきたし、当月精算をかちとってきた。

真剣な職場の分局

活用については、どの分局も系統化されず、個人まかせに終わっているが、新しい分局（滋賀息吹合唱団、八日市あらくさ）ほどうた新中心の活動をすすめているし、職場の分局ほど日本のうたごえの基本方針、よびかけを忠実に討議し、全読者のものにしている点が出され（電通京都、神戸市役所分局等）力があるといわれている中心合唱団員の読者の方が完全に立ちおくれ（あまり新聞そのものをよまない）ていることがだされ、うた新への軽視とうた新そのものの内容を低めていることがあきらにされた。とくにうた新を拡大することが、団やサークルを拡大することになるなど考えてもみなかった（和歌山ミール分局）し、拡大して行くことがうた新を生き生きしたものにすることになるとは気がつかなかった。

面白かった記事

今まで特に役に立った、又面白かった記事は電通祭典特集号（神戸市職分局、攻ゲキの内容などが同じで突破しなければいけないところがどこかという点についてみんなが勉強できた。）創作曲は矯んどかかさずレッスンの中でとりあげている。とくにたった二三行しかない解説がとても役に立った（滋賀八日市あらくさ分局）大塩のしまいの記事などは読者の職場まで反響があり話題になり部数としても拡大して行く力になった（西播センター分局）分教室を担当して八中央合唱団堀喜美代ソの記事（京都ひまわり）苅ソ合唱団の戦闘的なレッスンに学ぶ八浜島♡（関西合唱団）一千万かわら版（東大阪センター）中国の音楽運動（滋賀息吹分局）中心合唱団員に当てた手紙（西播センター、神戸青年合唱団）荒木栄の創作活動の報告（彦根みずうみ他）等々うたで闘う内容について、活発にだされた。

サークルの通信も指導

通信については通信員制度があることも知らなかった（奈良蟻の会分局）通信を一度も送ったことがない分局が半分近くあり、ボスターはりなどで攻ゲキされた時など感動的な活動が行われた時位しかおくらなかった（堂島エコー）、全然おくっていなかったが日うた祭典参加の感想文を文集にしたものを送ったのに対し、早速返事がきたのでこれからもどんどんおくる（大阪交通局）自分の分局だけでなく、受けもっているサークルからも配事がかけるように指導をした（東大阪）。

拡大について、昨年の三月、四月九月、十月の拡大月間に意識的にとりくんだ（関西、東大阪、南大阪、電通京都、和歌山ミール、神戸市職）分局は新しい団員、研究生、職場サークルなどに影響力をもっている。とりくまなかった分局は読者が中心合唱団員だけにとどまったり、団員全員にも行き渡っていない（神戸青年、京都ひまわり、いろり）など一千万達成の課題がうた新の分野では運動化されないでいた。

このような点検にもとづいて、次のようなすばらしい方針がだされた。

一職場に一分局、自主的に拡大目標

拡大について、関西は四月二十五日の大阪のうたごえ祭典（目標一万名）に向けて、春闘とむすびついた活動をすすめる中で一、二万部達成のためにいまある分局は三月までに最低四〇%を拡大する。その内容は一職場に一分局。関西合唱団は現在浮いている二〇～三〇部を固定させると共に二五分局三三%増。東大阪、南大阪合唱団は滞納金の金額を精算すると共に四〇%増

東海　中心合唱団が先頭に

何で武装するか

東海地方では各県のセンター合唱団を中心にオルグがされた。

特に名古屋青年合唱団を中心にした、東海音楽センターでは、センターの確立をすすめて行く中で、去年一年間一千万へと、一千万へと、運動をどんどん拡げていったが、おもいつきで追求した活動スタイルで、組織的には拡がった活動家が、何で武装するかまで点検されなくて、うた新については「何にもやっていなかった」の一言につきる（名古屋桑山さん）という現状が出され、今回の現勢調査の活動をどうとりくむかを話し合い、すでにハンドルコーラス（全自交）高岳製作所うたう会（電機）、印刷、林野、愛知製鋼（鉄鋼）、国公センター、私鉄が分局を確立し他の産業別にも大きい影響力を与えている。又地域では市内17ヶ所のうたう会に参加している人が全員購読できるよう、団員一人一人がうた新の拡大も「運動」として受けとめ、すでに名古屋青年合唱団分局は倍加をかちとり、二月からはすぐに二〇〇部単位の宣伝紙の買い取りをするなど、今年も全国の先頭をきった活動をうた新拡大の中ですすめている。

読者が活動家だけでいいか

岐阜県ではうた協総会の中でうたの意義の息吹合は六〇%増。大阪市職グリーンコーラスは、二月からすぐ分局を確立し、団員全員の武器に。京都ひまわり一〇〇%増。氷上センター合唱団は旧部数の一〇〇%増。京都電通三三%。和歌山ミール四〇%増西播センター八〇%増など、どこの職場へ、いつまでに何部と自主的に目標がたてられた。

「今日は」だけでも書こう

通信・活用・配布・回収については、団員、サークル員、読者の全員がうた新購読の意義と編集部に対する意見をはっきりさせる機会をつくりあげる方向で全国で二万部をかちとって行く。回収については、中心合唱団員は必ず半年分又は一年分を前納する、通信については、「今日は」だけでも定期的にかく（東大阪分局）等すでにずぐれた方針をたてている分局がある。

分局担当者会議に参加できなかった分局には関西地方の分局担当者会議の内容を伝える方向で各県をまわった。

新拡大の意義がはなされ、総会参加の24団体40名以上の活動家が、一千万の真の武器になるべきうた新を「中心合唱団や活動家の範囲だけにうた新読者をせばめていた（もしもし名古屋）」ことがかえって一千万を活動家だけでやっていこうという嵐のせまい活動におち入らせていたことが出された。うたもうたえないところ（センイの職場）へ、日常的、系統的にむすびつくように「うた新購読の意義は」からはじまって「分局とは何か」①どうやったら職場を基礎に活動ができるか。②スピードをあげて一人一人の活動家を高めるためには、どこをどうすれば高まるか、など「うたで斗う内容を反映させる」うた新にしよう。そのための活動の具体的な保障の一部になる回収については、現在ある各分局が、前納制三ヶ月分をかちとり、全国の先進例として活動を開始した。

みんなうたう会の中へうた新を

又、三重県では四日市青年合唱団分局の団レッスンに参加した中で各団員一人一人からうた新についての意見が出された。

団の運営委員会はじめ、団員の一人一人が今までは団員やサークルをふやそうふやそうと云いながらもどこをどうすればふえるかについては、はなされなかったし中心合唱団の団員は「何でうた新をよまないかんかも分らなかった」紙代については、前納制を全国でとりくんでいることもしらなかったということも出され、一年間分のうた新つづりを見たら、みたこともない号があったりした。そうかといってサークルや、職場の労働者の中にまるでうたごえの活動がないかというと、そういうわけではなく、週一回の定期的なみんなうたう会には百人の単位であつまっていることが出され、中心合唱団が大衆に支えられた活動になっていないことが出され、体制強化の中で、みんなうたう会の中へうた新をもちこむことが全員のものになった。

やればびつくりするほどふえる

静岡の合唱団なかまは、全国のトップを切って拡大をとりあげたが全国の力としてそれをしたのではなく、係りになってはじめて意識的にやり、すごく増えたのでびっくりした（自治労の団員）し、電力の団員は、サークルがなく、民新などとても職場へは入れにくいが、うた新だったら楽譜についてだけでも読者をかちとり、どうしても、うたごえのサークルができなかったのにうた新の読者が中心となってサークルをつくりあげていった。等々すばらしい経験があるのに、まだまだ全団員のものになっていないので、拡大はこれからということで、関西に学んで40%の拡大と、前納金三ヶ月分を確立した。又、通信員については、今までの二人に加え、新たに若い団員二人を加え、通信員の活動が団内で理解されるように、書記局で点検する体制を総会で決めた。

2月2日、米原子力潜水艦は佐世保港に再び入港した。統一した民主勢力は直ちに海上と陸で抗議デモを行い、翌三日、原潜「寄港」抗議西日本大集会には、うたごえ行動隊も統一行動を行った。全九州合唱団会議に結集する九青、大牟田、熊本、久留米、佐賀、長崎の各合唱団、佐世保うたう会の仲間たちによって用意したピース1000部はたちまち売り切れ、「アメリカは帰れ」のうたごえは寒風の中をひびき渡った。

「うた新」アンケートの回収について

先ごろ発送した「うた新」現勢調査のアンケートは、三月一杯で一万部を達成し、月三回刊をかちとる上で、なくてはならない資料です。各分局は、責任をもって全国で討議し、二月末日までに必ず到着するよう、回答をお寄せ下さい。

うたごえ新聞社